

# 2024 AUTOBACS SUPER GT

## Round 1 OKAYAMA GT 300 km RACE



日産京都自動車大学校  
学生広報作成 レースレポート

この活動は多くのスポンサー様に支援されています

NISSAN REALIZE GROUP YOKOHAMA Nihon Mobility Service 日産車体 Logisnext UD TRUCKS ALTA PRESTIGE INTERNATIONAL  
株式会社ゼロ 日産モータースポーツ&カスタマイズ ROCK PAINT SYRANS COAT Premium Quick Pro Paint パーソナル クロステクノロジー TOPPAN Energywith エムエスピー UNICO  
NGK NTK MAL TOOLS KAMMOTO SOGO BOSEI CO.,LTD. D'EFF SUNTORY 日産 日産 日産 PUMA USA GT LS KSB Artec Avid  
日産神奈川 日産東京 日産大阪 日産プリンス福岡 埼玉日産 日産プリンス埼玉 岐阜日産 愛知日産 日産プリンス名古屋 滋賀日産 京都日産 兵庫日産 愛媛日産 鹿児島日産  
那覇日産 日産青森 日産サテライト弘前 日産プリンス空城 秋田日産 日産プリンス秋田 福島日産 栃木日産 日産プリンス栃木 群馬日産 長野日産 松本日産 日産サテライト埼玉 千葉日産 日産プリンス千葉 日産自動車販売  
三原日産 日産プリンス三原 静岡日産 日産プリンス静岡 浜松日産 日産プリンス浜松 奈良日産 和歌山日産 日産プリンス和歌山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 香川日産 日産福岡 日産サテライト佐賀 長崎日産  
日産プリンス長崎 日産プリンス大分 旭川日産 北見日産 岩手日産 盛岡日産モーター 日産プリンス岩手 日産サテライト秋田 新潟日産 日産サテライト新潟西 甲斐日産 日産プリンス山梨 日産サテライト千葉 日産サテライト新潟 富山日産 日産サテライト富山  
石川日産 福井日産 福山日産 宮崎日産 日産サテライト宮崎

# KONDO Racing Team Car No.56

## レース結果

### 予選

晴天の中で行われた予選は、18位という結果で幕を閉じました。性能調整による車両重量の増加や、新子選方式で苦戦し順位を上げられなかったように感じます。

### 決勝

晴れの国岡山にふさわしい、雲ひとつない青空の下で行われた決勝レース。私たち56号車はトラブルなく11位でチェッカーを受けることができました。しかし、レース後に行われた、ペナルティによるタイム加算の影響を受け、15位に降格。悔しいレース結果となりました。

## 目次

P3 SUPER GT 概略

P4 NISSAN MECHANIC CHALLENGE 概略

P5 KONDO Racing Team 近藤真彦監督 インタビュー

P6 KONDO Racing Team 佐々木大樹選手 インタビュー

P7 KONDO Racing Team ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手 インタビュー

P8 日産販売会社 テクニカルスタッフ インタビュー

P10 日産学園 学生スタッフ インタビュー

P14 岡山国際サーキット 特設ページ

P15 広報学生あとがき

## SUPER GT 概略



SUPER GT とは、市販車の面影を残した GT（グランド・ツーリング）カーと呼ばれるレーシングカーを用いて行う、日本最高峰のレースシリーズです。

そんな SUPER GT の魅力といえばやはり、GT500 クラスと GT300 クラスの混走です。速度域の異なるマシンが同じ時間、同じコースを走ることによって生まれる予想もつかない熱いバトルは必見です！

今季から予選方式が変更され、SUPER GT の予選は Q1 と Q2（Q は英語で予選を意味する Qualifying の略）の 2 回に分けて行われます。従来は、Q1 の結果をもとにして Q2 への進出可否を決定する「ノックアウト方式」でした。しかし、今季からは「Q1 と Q2 の合算タイムをもとにして出走順位を決定する方式」に変更されたため、全車が必ず 2 回の予選を行うこととなったのです。

さらに、予選中に使用できるタイヤの本数も変更されました。従来は Q1 で 4 本、Q2 で 4 本の計 8 本のタイヤの使用が認められていました。しかし、今季からは Q1 と Q2 を通して同じタイヤ（計 4 本）を使わなければならないことになったのです。予選方式が大きく変わることによって起こる、熾烈な出走順位争いからも目が離せません！

担当：井上

## NISSAN MECHANIC CHALLENGE 概略



NISSAN MECHANIC CHALLENGE とは「一人でも多くの若者を車好きにしたい」という信念のもと、日産自動車、日産自動車大学校、KONDO Racing Team が 2019 年から共同で取り組むプロジェクトのことです。

日本最高峰の GT カーレースである SUPER GT の GT300 クラスを舞台にしたこの活動は、普段の生活では学べないことが学べるのが特色のひとつです。全国の日産販売会社から選抜されたテクニカル・スタッフ（日産の整備士の名称）と日産自動車大学校の学生は、日々の業務や授業で培ってきた経験を武器に、更なる技術、知識の向上を目指して戦いの場へと臨みます。

私たち学生は、「接客などを行うホスピタリティ」「クルマの整備などを行うテクニカル」「選手のサポートなどを行うドライバーサポート」「情報発信などを行う広報」の 4 つの領域に分かれて活動します。少しのミスも許されない真剣勝負の場で、将来の自分にとって有益になることを学ぶべく、学生たちは奮闘しています。

担当：井上

## KONDO Racing Team 近藤真彦 監督



### 「勝利への食欲さ」

「大人な勝利、堅実に勝利を重ねてレースに勝つことよりも、泥臭く勝っていく方が『レース』という競技は面白い」。近藤監督は自身の考える「心の踊る勝ち方」を話しました。今シーズンから変更になった予選方式。勝利へ繋げるための戦略を今まで以上に考えさせられることになりました。近藤監督は「予選方式が変わったことは僕のチームだけじゃない。各チーム勝つ為の戦略を手探りながら考え、実践していくことだろう」と言いました。

新予選方式を受け入れつつ、どのようなレースになるかを不安げながらも楽しみにしている様子でした。

担当：小笹

## KONDO Racing Team 佐々木大樹 選手



### 「速く走るための努力」

「GT500 クラスで走ってきたからこそ分かる感覚だったり、活かせるような経験が僕にはある」。約 11 年振りに GT300 クラスで走る佐々木選手は言いました。

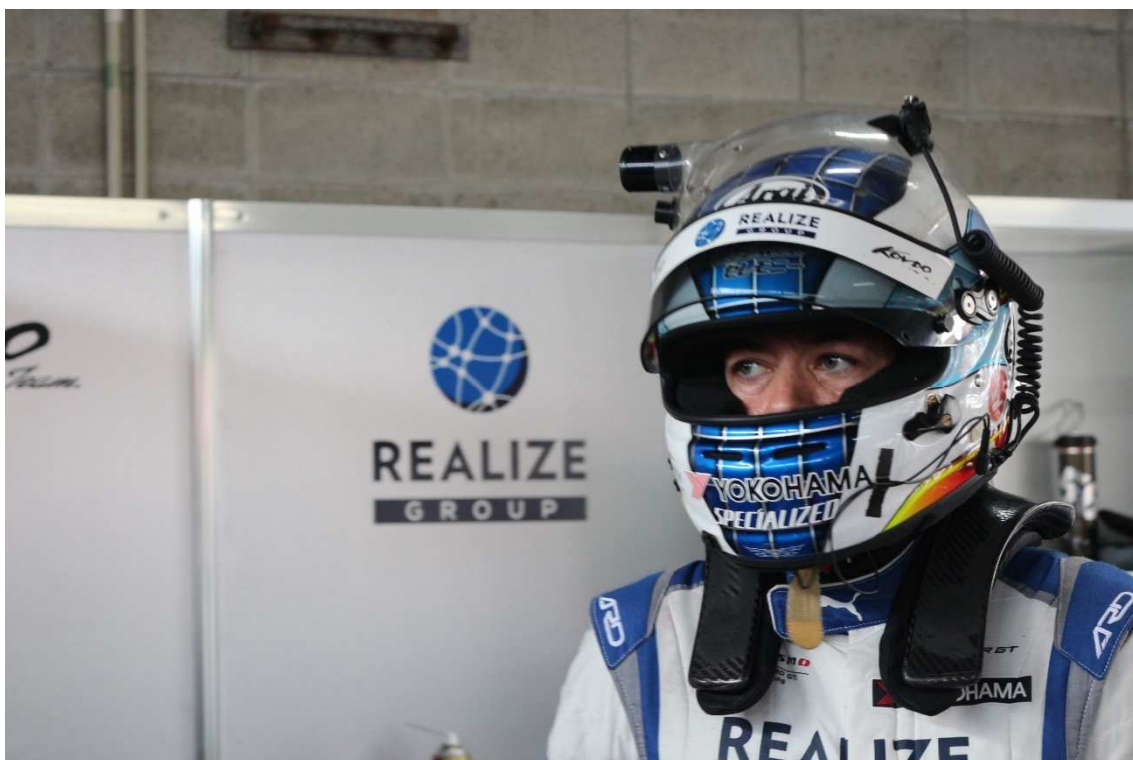
約 11 年、GT500 クラスで激しいレースを走り続けてきた佐々木選手。だからこそ例えばレース中に度々起こるクラスの違う車両での譲り合いや駆け引き。そこに対してどう動くかを相手視点でも理解できると言います。そういった両立場から考えられる事は GT300 クラスのレースで活かせると考えているようです。そう語る佐々木選手にインタビューを行って、「レースの為にコースの特徴や自身の強みの分析を徹底する真面目な人」だと感じました。

7 年振りの JP 選手とのタッグでは「印象はあの頃のままだ」と言う両ドライバー。佐々木選手には 7 年という長くも短いような時間で培った経験と技術を今シーズンで発揮してもらいたいと思います。

担当：小笹

KONDO Racing Team

## ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ 選手



### 「相棒への愛情」

オリベイラ選手が今シーズンを共にする相棒は、長年連れ添ってきた GT-R GT3 と 7 年ぶりのコンビ結成となった佐々木選手。真逆とも言える関係性の両者にどのような想いを抱いているのでしょうか。それについてお聞きしてみたところ、「GT-R の象徴的で強く見えるデザインが好きですね。特にフロントとリア周りがそう思います。背後で走っている車が GT-R だとタフさを非常に感じます」と、車両に対しては力強さを感じておられるようでした。佐々木選手の印象については「7 年前と本当に何も変わらないですね。長い年月が経った今でも、お互い良い関係にあると思いますし、良き友人でもあります」。なんとおどろくことに、佐々木選手と同じ回答が！その旨を伝えると笑顔で「それは良かったよ」と、嬉しそうな表情を見せた場面もありました。

担当：中野

日産プリンス広島販売株式会社 テクニカルスタッフ

鳥根弘貴 さん



## 「学生の時とは違った感触」

学生の頃にも参加したことがある日産メカニックチャレンジ。今回はディーラーの整備士としてこの活動に参加し、学生の時とはまた違ったものを経験することができました。

まず「車両に触る上での責任感の重さ」です。学生の時とは違い車両に触る頻度が増え、その分責任感も増えました。一つ一つの作業がレースに影響するので正確かつ慎重に作業するのに緊張感が走りました。またレースメカニックのチームの一員になるということもあり、学生の頃とは違った現場の感覚を味わうことができたのも良い経験です。

この活動を通して特に苦労したことは「視野を広げる」と言うことです。レースメカニックの邪魔にならない動きをするために、視野を広げるのに苦労しました。この経験を会社を持って帰り活かして行きたいと思います。

担当：口田



香川日産自動車株式会社 テクニカルスタッフ

工藤竜典 さん



## 「チームの一員として」

「チーム全体がポイントを獲得為、勝つ為の情熱を燃やしている」。ディーラーの整備士の工藤竜典さんは作業中に感じたことをそのように話しました。ピット内では自身だけでなく、チーム全体が作業でバタついていたと語る工藤さん。そこは、チームの勝ちに対する熱と一人一人の緊張感が入り交じっていたと言います。

この活動を通して気づいた自分に足りないと感じた点では次のように話しました。「正直、挙げ出したらキリがない。でも一番感じたのは知らない作業を先頭になって挑戦する積極性だろう」と。今回の経験が自分自身を見つめ直す良い気づきの場になったと話していました。また、整備士としてもっと上を目指す意欲が増したとも話していました。

担当：口田

## 学生統括 3年生 西村慶太郎



### 「重役の難しさ」

「昨年の岡山戦までは統括の役割は、班長の延長だと思っていました」と本音を溢していました。班長のときは班員だけ見ておけばよかったのですが、統括になると、全体を見ないといけなくなりました。各班の班員や先生はもちろん、関係者の方々まで気にかけるという気配りの仕方が班長と統括の違いだと実感しました。

今回は、前任の統括もオブザーバーとして参加していただき、様々なことを教えていただきました。前任の統括はやるべき事を自分自身で考え、行動していたため凄く大人に感じました。そう感じたうえで「自分自身もまだ分からないことがたくさんあります。学生や先生に助けをもらいながら成長していきたいです。」と意気込んでいました。

担当：井上

## ホスピタリティ 2年生 菅起人



### 「第一印象は笑顔で」

初めてホスピエリアで仕事をして、この活動を支えてくれているスポンサーの皆様との繋がりを肌で実感した。日々看板のロゴでしか見ないスポンサーの皆様達。このような方々を接客し、この活動でしか知ることができない貴重な体験をさせてもらうことができました。私がこの活動を通してすごく実感したことは「第一印象はとても大丈夫」ということです。短い時間で相手にどれだけ良い印象を残せるかがとても大事だと思いました。

また先輩方の今まで創り上げてきた印象を引き継ぐためにも、まずは笑顔で明るく接客することが大切だと知ることができました。

今回は1回目ということもあり、頼りっぱなしになることが多々ありました。しかし、次に参加する時には今回の経験を活かし、自発的に行動して、また新しい経験をしていきたいと思っています。

担当：口田

## テクニカル 2年生 和田将明



### 「経験しないと味わえない緊張感」

ピットに入った瞬間、まず目に入ったのはレースメカニックやTSの方々が作業している様子でした。そこでは、今まで経験したことのないようなピリついた空気感、緊張感を感じました。それはまるで空間にビリビリと電気が流れているようでした。でもその空気感はいつもある訳ではなく、場面ごとに空気感が変わりオンオフの切り替えがあることがわかりました。立場は違うとはいえ、同じ作業をする一員として、私の将来目指すべき姿がここにあると感じました。

私はこの活動に参加するのは2回目でテクニカルとして参加するのは初めてでした。ホスピタリティとして参加した時とはまた違った体験ができたと思います。

この活動にはこの活動でしか体験できない空気感や学びがたくさんあると2回参加して改めて感じました。まだ参加したことのない方には是非この活動に参加して特別な空気感を肌で実感してもらいたいと思います。

担当：口田

## ドライバーサポート 3年生 加納愛奈



### 「失敗という肥料」

気づけば今回でメカチャレに参加するのが4回目という加納さん。参加条件が少し特殊な広報領域を除けば、全ての領域を経験したことになるといいます。ドラサポも今回で2回目とのことなので、前回と比較して成長したと感じた点についてお聞きしてみました。

「ドラサポの仕事場は主にピット内なので、チームのみなさんの邪魔にならないような動線の確保が肝になります。前はそれがうまくいかなかったのですが、今回は、『ここにいると邪魔になるな』、『このタイミングで動くのはだめだな』といったことを素早く判断して行動に移すことができました。以前の失敗をリカバリーすることができてよかったです。また、同行していただいているチームのマネージャーの方に、積極的に質問することができるようになりました。前は遠慮がちになっていましたが、今回はより自発的に行動できたので、色々なことを学べたと思います」と、ほほ笑みながら語られました。その屈託のない笑顔が成長を裏付けているようでした。

担当：中野

# 岡山国際サーキット特設

もし、あなたが桃太郎だったら IN KONDO Racing Team

開催地が岡山ということで近藤監督と佐々木選手、オリベira選手に岡山にちなんだ質問を試みました！

## Question

もし、あなたが桃太郎だったらどの動物を連れていきますか？

## Answer

### 近藤監督

『ゾウ！だって強いでしょ！インドに行ったことがあるんだ！そこで象の背中に乗ってね、川の中を歩くんだよ。まるで4WDだね』『象ってさ、ゆっくりしてるイメージだけど、野生の象って怖くて、牙とか生えてると現地の人でも警戒してさ、こわがるんだよね。すごく強くて頼りになるじゃん。』『桃太郎も象を連れていけば楽だったんじゃないかな？あ、でも、キビダンゴが大量にいるかもね』

### 佐々木選手

『馬かな。歩かなくて済むし。車があったら車がいいけど、桃太郎の時代がないから馬かな』『他の動物を連れて行くなら…ゴリラかな。やっぱり鬼退治に行くなら強い動物を連れて行かなきゃね』

### オリベira選手

『連れていくなら犬がいいですね。それも賢くて強くて役に立ちそうな…ジャーマンシェパードみたいな犬です』『ワシもいいかもしれないですね。速く高く飛べるうえに、目がいいから敵も発見できますし』

という答えが返ってきました！

やはり近藤監督はビッグな方ですね！

佐々木選手は冷静かつ、攻撃的な選択でしたが、オリベira選手は偶然にも物語と同じようなチョイスになりました。やはり、各々の性格が反映されていますね！KONDO Racing Teamのお供はゾウ、馬、ゴリラ、犬、ワシという風になりました！強そうですね！

次回はどのような質問を試みようかとワクワクします！

担当：井上

## 広報学生 あとがき



昨シーズンから、自動車メディアのベストカーWeb編集長の指導の下で、プロの仕事を身近に体験出来る機会を作っていただいています。そこでは、写真の撮り方や記事の書き方などの広報としての教えだけでなく、人としての成長に繋がる学びがありました。昨年から教えていただいていることを糧に、今年度も様々なことに挑戦させていただきましたが、やはり、「プロ」という高い壁は越えられませんでした。ですが、自分自身で昨年よりも成長していると実感することが出来ました。

この経験ができたこと、この機会を作ってくくださった KONDO Racing Team 様やスポンサー様、ファンの皆様、広報支援部の方々を始め日産自動車、ベストカー様など多くの応援により、成り立っていることを学生一同、心より深く感謝いたします。本当にありがとうございます！

担当：井上

広報学生スタッフ

広報学生統括 3年 井上颯太  
2年 中野嘉人  
2年 口田純也  
2年 小笹康汰